



福用周辺の崩落



家山～千頭間を運行する 代行バス

台風で被災した 大井川鐵道の現状報告

2023年9月時点でも一部区間でバスによる代行輸送が続く大井川鐵道。
その現状と課題を大井川鐵道・広報室の山本豊福氏が報告する。

被災箇所（川根温泉笹間渡～地名間）

・被災時の状況について

2022（令和4）年9月23日深夜から24日未明にかけて、静岡県中西部地方は台風15号による大雨により各地で大きな被害を受けました。中でも当社は大井川本線（金谷～千頭／39.5km）で33カ所、井川線（千頭～井川／25.5km）で26カ所にわたる土砂崩れや路盤流失などを確認。24日から本線、井川線とも全線にわたって運転を見合わせました。

・不通区間の推移

しかし関係者の努力もあり、10月8日、井川線の千頭～接岨峡温泉間が部分開通。さらに10月22日には接岨峡温泉～井川間が復旧し、井川線は全線開通を迎えます。一方、大井川本線は9月26日から本線全区間にわたり代行バスの運転を始め、地域輸送を担います。

今回の被災で一番象徴的な場所として採り上げられたのが金谷起点11.3キロ地点（福用駅近く）でした。近くにある採石場跡地から流れだした土砂や砂利およそ8000m³が線路を埋め尽くし、行く手を阻みました。同地点の復旧工事については静岡県島田土木事務所が対応。金谷～家山間の被災箇所については国や島田市の補助を受けながら自社で復旧工事を行い、12月16日には同区間の部分開通を果たしました。

・家山～千頭間について

家山～千頭間については合計26カ所にわたり被災。しかも一カ所一カ所の被災規模が大きく、当社調べでおよそ19億円の復旧費用が見込まれることが明らかになりました。これに自社が復旧費用を賄うのは困難であるとの判断から、2023（令和5）年1月には沿線自治体である島田市、川根本町、静岡県、国土交通省に「鉄道事業運営支援に関する要望書」を提出。大井川鐵道本線沿線における持続可能な地域公共交通のあり方を維持するため、静岡県を中心とした協議会の設置や、そこで決定した方針を実施するために必要な支援を要請しました。

・今後のあり方を検討する会が発足

これを受けて3月22日、静岡県が中心となり「大井川鐵道本線沿線における公共交通のあり方検討会」が発足、関係者の意見集約や家山～千頭間の復旧、すなわち金谷～千頭間の全線復旧や大井川流域における大井川鐵道の将来的にあるべき姿の協議をしています。

協議の中では現行の補助制度を活用した復旧方法についての議論が中心となりますが、当社の場合は「SL列車」や「きかんしゃトーマス号」などの観光列車運転が「地域公共交通」を支える全国でもまれな運営形態となっており、「地域公共交通機関の枠組み」では議論の尽くせない部分が出てくることも見込まれます。

・全線復旧を目指して

大井川鐵道としての最終目標は金谷～千頭間の全線運転再開と、その後の持続的で安定的な運営です。これに対する具体的な動きが2点あります。

まず、鉄道・運輸機構（横浜市）が4月1日に発足させた鉄道災害調査隊が第一号案件として6月19日、20日と現地調査に入り被災状況の把握に入りました。

さらに当社としては10月1日に家山から2駅先、川根温泉笹間渡までの区間運転再開を目指しています。

・今後について

千頭までの全線復旧にはまだまだ長い道のりとなるでしょうが、10月1日の延伸が大井川流域に少しでもにぎわいをもたらすことができれば幸いです。

現在、大井川本線は営業距離がおおよそ半分になっていますので自ずと売上額が伸び悩みます。ただ、「伸び悩んでいます」で終わっては いけません。足元において、半分の営業規模でもできることをどんどん打っていく。

そして、注目がさらに高まりつつある奥大井湖上駅とSL列車等とを組み合わせたツアー商品を造成してゆくなど、大小は問わず考えられる対策を施してゆくこと。ここを固めれば全線開通などありえませんが、足元を固めるためには、まず、一人でも多くの方にご乗車、ご利用いただくことが、全線復旧への第一歩となると考えています。どうか、この機会に皆さまにご来訪いただきたく、心よりお待ち申し上げます。



大井川鐵道株式会社 広報室

山本豊福

Toyofuku YAMAMOTO